

検査項目のご説明 I

検査項目		内容説明
肝機能	AST (GOT)	筋肉や肝細胞に多く含まれる酵素で主に肝機能障害、筋肉の炎症や外傷、心筋梗塞で増加します。
	ALT (GPT)	
	LD (LDH)	肝臓・心臓病や血液疾患・悪性腫瘍等で増加します。
	ALP	胆石や胆のう炎等の胆道系疾患や肝臓の病気で増加するほか、骨の病変でも増加します。
	γ-GT (γ-GTP)	アルコール性肝障害や、その他の肝・胆道系疾患で増加します。
	ChE (コリンエステラーゼ)	脂肪肝では増加、肝機能障害や有機リン系剤中毒で低下します。
	T-Bil (総ビリルビン)	体質性黄疸、溶血性黄疸、閉塞性黄疸の鑑別の指標となります。
	D-Bil (直接ビリルビン)	
	TP (総蛋白)	栄養状態、肝臓・腎臓の機能をみます。
	Alb (アルブミン)	総蛋白の変動とおおむね同じ推移をしめします。
電解質	Na (ナトリウム)	水分調節の異常をみます。
	K (カリウム)	水分調節、神経や筋肉のはたらきを調整します。
	Cl (クロール)	水分調節の異常をみます。
腎機能	UN (尿素窒素)	蛋白を構成するアミノ酸の最終代謝産物で腎臓から排泄されず、腎機能低下で高くなります。
	CRE (クレアチニン)	筋肉中のクレアチンの代謝産物で腎臓から排泄されます。腎機能低下で高くなります。
	UA (尿酸)	核酸を構成する物質のひとつであるプリン体の代謝産物です。増加すると関節や腎臓にたまって、痛風や腎障害を起こすことがあります。
	eGFR(推算糸球体濾過量)	腎臓が1時間当りに処理できる尿量を示す糸球体濾過量を、計算式から推定し求めたものです。
脂質	T-Cho(総コレステロール)	脂質代謝や肝機能をみます。
	HDL-C(HDLコレステロール)	余分なコレステロールを組織から肝臓に運ぶ働きをします。善玉コレステロールとも言われ、動脈硬化を抑制する作用があります。
	LDL-C(LDLコレステロール)	コレステロールを全身に運ぶ働きをします。悪玉コレステロールとも言われ、増えすぎると動脈硬化を促進します。
	TG (中性脂肪)	脂肪細胞の中に蓄えられて、貯蔵用のエネルギーとなります。増えすぎると、動脈硬化を促進します。
膵機能	AMY (アミラーゼ)	膵疾患や急性耳下腺炎などで増加します。
	尿中AMY	
生化学的検査	CK(クレアチンキナーゼ)	心筋や骨格筋などの組織・細胞の障害で増加します。
	CK-MB	心筋に多く含まれ、急性心筋梗塞の指標となります。
	Ca (カルシウム)	内分泌疾患や骨代謝異常をみる検査です。
	Fe (鉄)	貧血の検査です。
	フェリチン	貧血の検査です。

* 参考値とは健康な人の集団を元に、その95%が含まれる範囲を示しています。その為、参考値を外れたからといってそれだけで病気かどうかという判断をするものではありません。また施設により測定方法や機器の違いなどにより若干検査値が異なる事があります。個々の検査結果につきましては、主治医にご相談ください。

検査項目のご説明 II

検査項目		内容説明	
血清反応	CRP(C反応性蛋白)	炎症や組織の破壊が起こると、約2～3時間で急激に増加します。	
	RF(リウマチ因子)	慢性関節リウマチ、膠原病に関する検査です。	
	HBs抗原	B型肝炎ウイルス抗原検査です。	
	HCV抗体	C型肝炎ウイルス抗体検査です。	
	RPR	梅毒の検査です。	
	TP抗体		
血液一般	血液算定	WBC	白血球の数です。炎症、感染症、アレルギー等で増加します。
		RBC	赤血球の数です。主に貧血の有無を検査します。
		HGB	血液に含まれる赤血球の色素(ヘモグロビン)で、貧血や多血症等を調べます。
		HCT	血液に含まれる赤血球の容積で(%)で示します。
		MCV	赤血球の占める容積の平均値で、赤血球の大きさがわかります。
		MCH	赤血球に含まれるヘモグロビン量の平均値です。
		MCHC	赤血球の容積に対するヘモグロビン量の割合です。
	PLT	血小板の数です。血液を固める作用を持つ血球成分で、少ない場合は出血傾向となり、多すぎると血栓の原因になります。	
血液像	Ne (好中球) Eo (好酸球) Ba (好塩基球) Mo (単球) Ly (リンパ球)	白血球の成分を(%)で表しています。感染症やアレルギー性疾患などで変化します。	
糖代謝	血糖	糖尿病やその傾向の有無を調べます。	
	Hb A1c(NGSP)	ヘモグロビンと糖が結合したもので約1～2ヶ月前の血糖値を反映します。	
尿検査	尿定性	PH	正常尿は弱酸性でPH6. 0位ですが、食物の種類によってPH4. 5～8. 0の間を変動します。
		尿比重	腎臓の濃縮力をみる検査で、脱水症状で高値となります。
		尿蛋白	ネフローゼ、腎炎やその他の泌尿器系疾患を調べます。
		尿糖	血液の検査と照らし合わせ糖尿病の有無を調べます。
		ケトン体	脱水、糖尿病の重症時、甲状腺機能亢進症等で陽性となりますが、食事の摂取不良や妊娠等でも陽性となる事があります。
		尿潜血	尿中の血液等に反応します。
		ウロビリノーゲン	肝機能障害の診断に役立つ検査です。便秘等に陽性に出る事があります。
	ビリルビン	陽性の場合、肝実質障害や胆道閉塞の存在が疑われますが、他の検査結果と合わせて診断します。	
尿沈渣	赤血球、白血球、扁平上皮等	尿中の細胞や細菌、赤血球の有無(出血)、白血球の有無(感染)を顕微鏡的に検査します。	
検便	潜血反応(ヒトヘモグロビン)	便への血液混入の有無をみます。痔でも陽性になりますが、大腸ポリープや癌の合併も否定できないので精密検査をおすすめしています。	